

## H2 1.3.13 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成21年3月13日（金） 9時00分～12時25分

議事概要：

表 H2 1.3.13 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1.魚類検討会の経緯について	・魚類検討会の経緯について報告した。	・特になし	・特になし
2.平成20年の野外実験について	・平成20年度の野外実験進捗（飼育魚の状態）について報告した。	・飼育魚の鰭の状態に変化が見られるため飼育環境の改善が必要である。 ・飼育水に河川水を用いてはどうか。	・事務局：飼育手法については、底質や隠れ家の改良を行い、河川水の水槽を用いるなど複数の試験区を作成して経過を見る。
		・飼育魚のコンディションチェックについては、外傷によるダメージの確認など、まめな観察を行うべきである。 ・ネコギギの個体ごとの写真が撮影されているので、鰭の再生の程度を見るためにも撮影を続けてほしい。	・事務局：飼育における観察方法を策定し、実施していく。 ・事務局：個体写真の撮影は、ストレス、ダメージを与えないために、数ヶ月に一度程度で撮影する。
		・放流方法の改善案については検討しているか。	・事務局：河川内に籠を設置し、馴致することは可能と考えており、次回放流までに検討する。
3.人工水路実験について	・隠れ家実験の結果について報告した。	・間隙の形状を測定しているが、個体の滞在時間と形状との関連等は分析可能か。	・事務局：今回のデータを元に、今後、定量化の方法について検討する。
4.支川のポテンシャルについて	・支川の生息ポテンシャルを把握するための詳細調査計画と、現段階でのポテンシャルの有無を報告した。	・放流実験を予定しているが、現在の所、短期的な定着も成功しておらず、技術的に未熟であり、次のステップへは進めない状態ではないか。	・事務局：今後、実験結果が出ていないことを考慮した上での対応策も併せて検討した実験計画を策定する。
5.平成20年度モニタリング結果	・横穴変動量調査結果を報告した。	・特になし	・特になし
6.ダム工事進捗との関連	・転流工施工時の対応（案）について説明した。	・転流工部分でネコギギが少数確認された場合、ただちに別の生息場に放流する等の対応は選択肢としてないのか。 ・繁殖技術が確立できないなど、仮定している対応がとれない場合はどうするのか。	・事務局：不確定な要素が多いため、平成21年に現況を確認し、その状況で最適な方策を考えていく。
7.今後の調査・検討計画について	・今後の調査計画等について説明した。	・特になし	・特になし
8.ネコギギ以外の魚類について	・ネコギギ以外の希少種、注目種の取り扱い、対応案について説明した。	・調査範囲がダムの影響範囲内のみ限定されているが、対照区のデータが必要と考える。 ・特にアユが環境の指標、ダムの影響の指標として重要と考える。 ・アカザも環境指標種として整理可能ではないか。	・事務局：現在実施中のアユ調査及び下流河川で実施している各種の調査情報を収集し活用する。 ・事務局：これまではネコギギを環境の指標と考えてきたが、ネコギギのいない場所についてどのように対応するか、今後、整理して議論していきたい。